



琉球列島の生き物たち

数多くの島々からなる琉球列島は、大昔には、何度か大陸と陸続きだったといわれ、その時渡ってきた大陸の動植物が、島ごとに形や色を少しずつ変化させながら生き残っているものが多くいます。

植物だけでも2000種あまりあるといわれ、動物も多くの種がいます。「豊かな自然」とは、その土地の気候や地質などの環境に合った生き物の種類が多く、バランスのとれた自然です（外来生物は除く）。

特に北部地域には、ドングリのなるイタジイやマテバシイをはじめ、たくさんの動植物が見られます。

また、亜熱帯海洋性気候や海流の影響もあって、南方系の動植物も多く、河口付近では、マングローブ林も見られます。

暖かく、浅い海に発達するサンゴ礁も、多くの生き物のすみかであり、天然の防波堤の役割を果たしています。サンゴ礁が隆起したところには、鍾乳洞ができているところもあります。

このように、琉球列島には、豊かで多様な自然の姿を見ることができます。しかし、陸地の面積がせまく、生態系の広がりが小さいために、人間の生活や活動の影響を受けやすく、種の減少や絶滅が心配されています。



北部の山々



ミナミトビハゼ



ハクセンシオマネキ・右み



シリケンイモリ



ヤンバルクイナ



コノハチョウ



マテバシイ

(文責：玉村かおり)